

三〇二七番

近江あふみの海うみ 辺へたは人ひと知るし  
沖おきつ波なみ 君きみをおおきては  
知るし人ひともなし

三〇二八番

大おほき海うみの 底そこを深ふかめて 結むすびてし 妹いもが心こころは  
疑うたがひもなし

三〇二九番

貞さだの浦うらに 寄よする白しら波なみ 間あひだなく 思おもふをなにか  
妹いもに逢あひ難かたき

三〇三〇番

思おもひ出いでて すべなき時ときは 天あま雲くもの 奥おくかも知しら  
ず 恋こひつつそ居をる